研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-141		17-328	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Symptom-Triggered Detoxification Using the Alcohol-Withdrawal-Scale Reduces Risks and Healthcare Costs.

アルコール-離脱-スケールを使用しての自覚症状によって開始するアルコール解毒療法は患者のリスクと健康ケア費用を減らす。

執筆者

Soravia LM, Wopfner A, Pfiffner L, Bétrisey S, Moggi F.

掲載誌

Alcohol Alcohol. 2018 Jan 1;53(1):71-77. doi: 10.1093/alcalc/agx080.

キーワード	PMID:
アルコール離脱症　ベンゾジアゼピン　　アルコール解毒	29281047

要　旨

目的：

アルコール離脱患者のために症状によって開始する治療はほんの少数の既存の実験的研究だけしかない。我々は使用に関する症状引き起こされる解毒の効果とベンゾジアゼピンの使用の有無とその用量、離脱合併症の適応量をアルコール摂取障害のための自然主義的な臨床設定の専門治療センターで調査した。

方法

全体で、アルコール離脱のために収容療法に入った患者の 301 の医療記録を後向き分析した。Alcohol Withdrawal-Scale（AWS；アルコール-離脱-スケール）で治療された 176 例の患者の医療記録は、AWS の実施の前に通常通り治療で治療される（TAU 群）125 例の患者の医療記録と比較した。社会人口学的と臨床的変数、以前のアルコール解毒の既往と合併症、治療の期間、ベンゾジアゼピンおよび他の離脱薬物の使用の有無とその容量、治療の合併症やその早まった中断を患者の医療記録から確認した。

結果

入院治療に際して測定される人工統計学的変数または臨床的変数は２群において有意差はなかった。アルコール解毒の間にベンゾジアゼピンで治療されている患者の総パーセンテージは、AWS の実施の後、78.4 から 38.6%に減少した。

AWS の実施は、急性解毒の継続期間を 136 から 66 時間へと短縮し、ベンゾジアゼピン使用の有無、期間と用量を約 3 分の 2 まで有意に減らしたが、合併症と治療の中断は不変で残ったままであった。解毒のための健康管理費用は、患者一人当たりで半減した。

結論：

本研究の結果は、アルコール離脱の症状をきっかけに開始する治療が自然主義的臨床設定として安全かつ有効であり、患者の健康ケア費用を減少させ、薬物過剰のリスクを低下させることを示す。